

氏名	CHOWDHURY, SHARIF MD. RIAZ
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第1557号
学位授与の日付	平成9年3月25日
学位授与の要件	医学研究科内科系臨床検査医学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Does recurrent acute pancreatitis lead to chronic pancreatitis? Sequential morphological and biochemical studies (反復性急性膵炎は慢性膵炎に進展するか？継時的な形態学 および生化学的検討)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 原田 実根 教授 槇野 博史

### 学位論文内容の要旨

慢性膵炎が独立疾患か反復性急性膵炎の結果については未だ論争がある。本研究はラット反復急性膵炎が慢性膵炎に進展するか否かを形態的および生化学的に検討した。コリン欠乏食飼育ラットに体重100gあたり60mgのエチオニンを週2回腹腔内注射し、4、6、8週後に各6匹を屠殺した。8週以後は無処置とし、12週と16週に屠殺した。組織学的には8週で慢性膵炎様の病変が完成した。免疫組織化学では4週で先ずフィブロネクチンの強い反応が出現し8週まで増強した。6～8週にコラーゲンIとⅢの強い反応を、Ⅳの中等度の反応を間質に認めた。しかし、これらの異常は障害を中止すると、16週までにほとんど正常に復した。Prolyl hydroxylaseは4～6週で有意に増加したが、8週以後は正常化した。コラーゲン分解酵素の変動は認めなかった。結論：急性膵炎の反復のみでは慢性膵炎様の病変が得られても非荷逆性にはならず、さらにコラーゲン生成系の持続的亢進または分解系の持続的抑制が必要であり、それらの調節因子の解明が重要である。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論文審査結果の要旨

本研究はラット反復急性膵炎が慢性膵炎に進展するか否かを形態的および生化学的に検討したもので、ラットにエチオニンを腹腔内注射を行う実験モデルで実施している。その結果、組織学的には8週で慢性膵炎様の病変が完成したが、エチオニン投与を中止するともとにもどることがわかり、急性膵炎の反復のみでは慢性膵炎作成は不可能であるとの価値ある業績であると認めた。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。